



7月は「**STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン**」の
の重点取組期間です。

発注者・作業場所管理事業者・個人事業者等が対象になります。

2026年3月策定 | 新ガイドラインの3つの要点

昨年の職場熱中症死傷者数は1,681人（前年比41%増・過去最多）。

厚生労働省HP

一方で死亡者は15人と前年から半減しました。

義務化の効果が見えるが、「発症そのものを抑える」ことが
次の課題として浮上し、新ガイドラインが策定されました。



要点1 「発症者の抑制」という考え方が加わった。

従来の「早期発見+措置」に、「**発症者の抑制**」が新たに加わりました。
発症してから対応するのではなく、そもそも発症させないための
環境・作業・教育の整備が求められます。

要点2 対策は「5本柱」で体系化された。

熱中症対策を以下の5つの観点で整理。「抜けがないか」の
チェック視点として活用できます。

- ①**体制の確立**／ 予防管理者の選任、責任体制
- ②**作業環境管理**／ WBGT測定、休憩場所、冷却設備
- ③**作業管理**／ 作業時間、暑熱順化、水分・塩分補給
- ④**健康管理**／ 健康診断、有者への配慮、巡視
- ⑤**労働衛生教育**／ 管理者・職長・作業従事者向けに教育を実施

要点3 対象が「全ての熱中症のおそれのある作業」に拡大。

事業者だけでなく、**注文者・作業場所管理事業者・個人事業者等**も
ガイドラインを参考にした対応が望ましいとされました。
元請・発注側にも目配りが求められる時代に入りました。



今こそ取り組みたい「暑熱順化（しょねつじゅんか）」

新ガイドラインで特に重要視されているのが暑熱順化です。

実は梅雨明け直後～7月上旬が、年間で最も熱中症リスクが高まる時期。

その理由が、暑熱順化の有無にあります。

暑熱順化とは？

人体が暑さに少しずつ慣れていくプロセス。順化が進むと汗をかきやすくなり、汗の塩分量も減り、体温調節がスムーズになります。これが「発症そのものを抑える」体側の防御機能です。

順化前（梅雨明け直後）	順化後
汗が出にくい 汗に塩分が多い 体温が下がりにくい →発症リスク大	汗をかきやすい 汗の塩分が少ない 体温調節がスムーズ →発症リスク低

【順化を進めるスケジュール例】

ガイドラインでは、計画的に暑熱順化期間（おおむね 1 週間）を設けることが推奨されています。

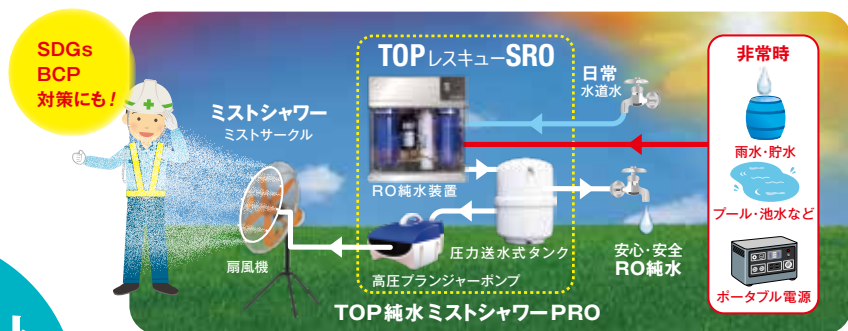
期間	作業時間の目安	ポイント
1～2日目	通常の50～60%	短時間から開始。こまめな休憩と水分補給を徹底
3～5日目	通常の70～80%	この時期に発症が多い。体調観察を慎重に
6～7日目	通常の100%	概ね順化完了。引き続き体調観察を継続

※気温・湿度・作業内容により調整が必要。長期休暇明けや配置転換後は改めて順化期間を設定。

【順化期間を「環境側」で支える選択肢として】

順化中は作業者の体がまだ暑さに対応しきれていない期間です。体側の準備を、環境側でいかに支えるかが発症抑制の鍵に。日陰・休憩スペース・冷却機器・水分補給ポイントなどの選択肢の一つとして、

ミストシャワーは気化熱で広範囲の体感温度を下げる手段として活用できます。



純水ミストの効果的な例

- 電子機器・精密機械が近くにある工場
- 食品・金属加工など「水跡」「白い汚れ」を避けたい現場
- メンテナンス頻度を抑えたい（ノズル詰まり・スケール対策）

※水道水で対応可能な現場も多くございます。
お客様の環境に合わせてご提案いたします。



お問い合わせ
株式会社トップウォーターシステムズ

TEL.03-6715-1902
〒143-0015 東京都大田区大森西 5-27-15
FAX.03-6715-1903/ top-support@top-water.co.jp

Top Water SYSTEMS